

No.	項目	仕分	進捗状況	
			第2四半期	
			I 進捗度	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針
			◎ : 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 ○ : 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 △ : 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」	
1	地域の基幹品目の振興	A	◎	<1/1>現地試験を通じて、効果的な黄化エソ病対策を周知できた。また、生産者、JA、普及所が21園芸年度での課題を共有化できたので、第3四半期では22園芸年度の取り組み目標と対応策の設定と実践を支援する。メロン新規登録薬剤の高温期での効果的な使用方法の検討・周知が図れた。今後、厳寒期での効果的な使用法の検討を行う。
			○	<1/2>トマトは、黄化葉巻病防除対策の徹底により発生が抑制されたことから、22園芸年度も引き続きコナジラミ類の発生状況や薬剤防除の実施状況などを把握し、適切な対策を指導する。イチゴは、「さがほのか」の育苗管理や炭疽病の早期発見・早期防除に努めた。今後は炭疽病の被害拡大を防ぐため定植後の防除対策を徹底する。また、「さがほのか」の定植後の栽培管理を徹底する。
			◎	<1/3>実施計画はほぼ遅滞なくできている。第3四半期は収穫・出荷期であることから、細心の注意を払いながら、計画が実行できるよう進行管理する。また、新たに課題化された加工品開発や加工原料供給体制の構築等、新たな課題へも取り組む。
			○	<1/4>オリエンタルユリ、グロリオサとも、有利販売に向けた情報共有と高品質生産のための技術の周知ができる見込み。オリエンタルユリは、平成22園芸年度の課題を関係機関と共有できる見込み。第3四半期からは、グロリオサは平成22園芸年度の課題を共有する。オリエンタルユリ、グロリオサとも、高品質生産技術の向上に取り組む。
			○	<1/5>稲作部会現地検討会等で生育概況・収穫の適期指導及び病虫害発生予察等を行い栽培管理の徹底を図った。稲作部会及び展示ほ成績検討会等で、今年度の反省と次年度に向けた取り組みを行い、高品質・安定生産技術の徹底を図る。
2	ショウガの安定供給と消費拡大	B	◎	エコシステム栽培、加工品開発など、新たな取り組みがはじまった。今後は臭化メチル代替技術の確立と併せて、新たな取り組みの着実な実践を支援する。また、貯蔵庫の事業化に向けて引き続き支援する。
3	ユズを核とした中山間農業の活性化	A	○	計画通り遅滞なく推進できている。また、緊急経済対策関連事業にも関係機関が連携し対応している。今後もユズチーム会が核となって生産組合と連携して取り組む。
4	中山間地域の暮らしを支える集落営農の推進	A	○	集落営農組織の育成については、地域の状況や地域の意向により、進捗に多少の遅速があるが、全体的には、ほぼ計画通りの進捗状況となっている。翌四半期には、JA等との連携を強め、集落の中心となる園芸品目の確定を図っていく。
5	四方竹のブランド化による中山間地域の振興	A	○	鮮度保持対策の課題が整理できたので、工業技術センターなどと連携して必要な調査を行う。また、真空パック、塩漬け、チルド保存など、出荷最盛期の出荷調整方法の検討とその労働力確保について地域と協議する必要がある。
6	鏡川流域での有機・無農薬等ECO農業と薬草の里づくり	A	◎	<1/2>有機市民農園を整備し、利用者を公募できたので、今後は効率的な運営を支援する。高知市地域有機農業推進協議会を中心に有機農業実践者が主体となった取り組みを支援する。
			○	<2/1>補助事業に着手することができた。また民間団体が主体となった有機農業推進協議会が設立できた。民間団体の主体的な取り組みを促しながら、流通販売体制の検討と商品開発などを支援する。
			○	<2/2>農家を巻き込んだ薬草導入に向けた調査、検討ができた。源流域でのECO農業推進方向について、課題整理ができ、実践が始まった。農家を主体とした取り組みを関係機関が一体となって支援する。
7	「田舎レストラン」による地産地消の推進	B	△	都市開発審査会への申請までは順調であったが、運営主体・運営方法等について再検討が必要となった。経営規模や運営方法等に支障がないよう協議・検討を重ね、意欲ある人を核とした運営組織を結成するなど、女性部主体のレストラン構想の策定・実行を支援する。
8	稲ホールクroppサイレーズを核にした耕畜連携の推進と二期作文化の復活	A	○	6月30日の耕畜連携会議で耕畜の合意を確認。8月10日 採択通知(畜産振興課へ)。今後交付申請及び事前着工手続きを踏まえ、できるだけ早期に機械を導入したい。9月15日には再生稲の収穫予定となっている。
9	乳製品の開発による新しい酪農経営モデルの創出	A	○	アドバイザーにフードコーディネーターの大原氏を起用。将来を見据えた計画も想定しながら、2回の検討をおこなった。
10	民有林における間伐の推進	A	○	<1/2>森の工場拡大に向けて現地状況の確認及び路網整備計画を関係機関の担当者と協議し設立に向け地元協議を行っている。
			△	<2/2>森の工場の設定と併せたモデル事業を検討しているため、第1回検討委員会を次期半期に開催するよう計画を修正する。
11	県産材の地域における需要拡大	A	○	治山ダムにおけるサバイバルウッド使用が可能となるとともに、作業路の設計においても丸太組工は採用されていることが確認できた。今後は新規計画の早期把握や民間需要の掘り起こしに向けて対策を検討する。

No.	項目	仕分	進捗状況	
			第2四半期	
			I 進捗度	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針
			◎ : 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 ○ : 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 △ : 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」	
12	木質バイオマスの活用に向けての取組	B	△	水産関係でのバイオマスボイラーの要望は有るが、ハウス農家でのバイオマスボイラー等の要望は見込めなくなった。バイオマスボイラーの燃焼試験を行うための補助事業の導入は出来なかった。
13	竹バイオマスの有効活用	B	○	国からの高知市バイオスタウン構想の承認を受けたので、進出企業の動向を見ながら、以降の取組方針を高知市、県とで協議する。事業規模などの進出計画を検証したうえ、竹林所有者の意向調査などの作業に入る。
14	森と海とをつなぐ取替型木柵魚礁の設置	B	○	水産庁事業の制度内容等について情報収集に努めるとともに、支援チームで具体的実施内容の検討を行う。引き続き、操業日誌の記帳継続を漁協、漁業者に働きかける。
15	高知県漁協直販施設での鮮魚等の販売促進	A	△	県漁協の状況や取り組み方向が明らかになるにつれ、当テーマだけに集中して傾注できる状況になく、ほとんど計画を具体化することができなかった。このため当期においては県漁協事業全体に対する効果的な支援が展開されていることから、この段階が一段落するまで、周辺状況の把握等に努めることとする。
16	底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大	C	◎	当期は計画の密度以上に会議が開催され、関係者で意識の統一や具体化が進められてきた。さらに民間加工業者との連携の可能性が強まりつつあり、当課題の加速化、課題自体のスケールが拡大されてきている。翌四半期はこの方向、流れをより確実なものとしていく。
17	冷凍ドロメの販路拡大	C	◎	今期に入って急速に地元の検討スピードが上がってきた。この機運を逃すことなく具体的な取組計画を自分たちで策定できるよう支援していく。このことにより翌四半期において、順次実証検討していく支援を行っていく。
18	こうち販路拡大チャレンジ事業の充実	B	○	スーパーマーケットトレードショーの出展事業については、県と連携を図りながら、出展企業の募集を開始した。今後も、県及び関係機関と連携しながら、下半期に向けて事業を執行する。
19	土佐のものづくり企業による地産外商の推進	A	○	商談会開催事業及び見本市出展事業については概ね順調に推移している。また受注企業名簿作成についても、高知市の企業データの収集は進んでいる。なお、高知県の事業の進捗が遅れており、特に受注企業名簿の発注を急ぐ必要がある。
20	工業分野における産業政策情報の一元化による競争力の強化	B	△	受注拡大検討委員会の開催が遅れ、それに連動して各種取り組みの着手が遅れている。情報一元化のツールであるポータルサイトの早期立ち上げのためにも、ポータルサイト構築等委託業務の早期発注に努める必要がある。
21	消費者の目から見たエコ商品の育成とブランド化	A	△	協議会の会議に参加し、事業主体であるMP委員会の体制を構築してもらうよう要請しているが、第2四半期に入っても、当委員会の体制が確立されない状況にある。引き続き協議会の会議等に参加し、速やかに体制を整えてもらい、支援対象企業への支援を検討していく。
22	「食材王国こうち」を目指した食材タワー構想	C	○	<1/3> 県や各関連団体等の類似事業計画の調査及び調整を実施。また、高知市エリアを中心とした規模での事業性を検討。上記及び本事業の主旨を考慮した結果、県の類似事業への発展的統合とし、県と連携しながら本市食材のPR等を実現していく。
			○	<2/3> 県が主となって実施中のものは、県・市が連携して推進していく。その他の事業については、順次検討していく。
			△	<3/3> 高知商工会議所と新市場開拓事業の実現について確認していく。
23	環境に優しい低炭素なまちづくりを目指した「環境維新」	C	○	法令、各種制度の調査や企業訪問を行い実態把握は行えている。今後も引き続き情報収集等を行い、情報提供やPR等の今後の事業展開の方法を明確化していく必要がある。
24	コンテンツビジネスの創出	B	○	国事業の採択や新しい事業への申請支援等、計画内容は概ね達成できた。クリエイター実態調査を基に、次年度計画を立てるとともに、四経局事業によるビジネスモデル創出に向け取り組んでいく。
25	おかみさん市の拡充	A	○	事業主体となる事業者と出店ルールを作成し、新規出店希望者の募集を開始した。
26	中心商店街でのアンテナショップの開設	B	○	「地域商店街活性化法」が施行。関係機関と情報交換し、支援策の協議を進めている。
27	安心・安全・快適な商店街づくり	B	○	1、「壱番街アーケード改修工事」は、計画通り進捗している。 2、「エコバッグ事業」は、製作した「土佐バッグ」が好評で追加販売にも取り組んでいる。よさこい鳴子踊りと同様に県外にも発信できる。
28	中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上	C	-	高知市において、現在計画策定に向けて取り組みを進めている。

No.	項目	仕分	進捗状況	
			第2四半期	
			I 進捗度	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針
			◎ : 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 ○ : 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 △ : 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」	
29	体験型観光推進のための組織づくり	B	△	高知中央広域市町村圏事務組合の枠組みを超えた市町村を招集し、観光圏の勉強会を実施することとする。については、下準備に時間を要するため勉強会の開催を10月に遅らせることとする。
30	「よさこい」を通じた観光客の誘致と「よさこい」ブランドの確立	A	△	<1/2> 実施に向けた課題整理等に着手。10月末までを目途に結論出しを行う。
			○	<2/2> デザインコンテストで賞をとった鳴子の商品化に向けた検討を行う予定で、よさこい「ブランド」に前向きに取り組んでいる。
31	映画を通じた「よさこい」発祥の地としてのアピールと観光客の誘致	B	○	高知市と県との協議の結果、新たなフィルムコミッションの取組の一環として、観光振興部の観光産業振興事業費補助金を適用し、高知ロケに対する経費について支援を行うこととした。
32	観光情報の集約と情報発信力の強化	A	○	掲載企業の目処が立ったため、webマガジン「旅色」の制作に着手する。
33	「エンジン01オープンカレッジin高知」の開催を契機とした交流人口の拡大	A	○	本番に向けて徐々に準備が進んでいる。市町村担当者あてにウェルカムパーティー、講師控え室、謝礼箱、物産展においてPRしたい物産がないかアンケート調査を実施し、20市町村からPRしたい物産について具体的な提案があった。これを軸に本番までに内容、品数を充実させていく。また、エンジン01終了後、「土佐のおきゃく」に引き継いで行く方向性が示された。
34	温泉開発による観光地としての魅力の向上	C	○	高知市旅館ホテル温泉協同組合が温泉設備導入に向けて調査研究、基本計画策定についてコンサルタント会社に委託。官民の関係者で構成する観光開発ビジョン策定プロジェクト推進委員会で温泉設備導入に向けて検討を進めている。
35	「龍馬伝」を契機とした観光の振興	A	○	坂本龍馬ゆかりの史跡巡りを中心に新たなまち歩きコースについて、マップが完成。高知市観光遊覧船についても、団体客受け入れのための3隻目の購入など、その運営体制について県市連携して支援を行う。
36	アユ群れる清流鏡川などの天然素材を活かした観光客の誘致	A	○	8月に「漁業体験エコツアーin浦戸湾」を参加者21名で実施。高知市観光課、観光協会の担当職員も同席。観光サイドとも連携した取組ができています。
37	食による観光の推進と地域物産との連携	A	○	<1/2> 高知市とNPO法人「高知の食を考える会」の主催で、7月25日から「高知B級グルメ維新！テーマ:高知の名物麺、名物丼」と称して、高知が誇るニラ、ナス、しょうが、みょうが、ししとう、ゆず、シラスの食材を1種類以上使用した麺類又は丼の新名物料理のアイデア募集を開始した(〆切9/30)
			○	<2/2> 県外産の箸は、高知商業との共同製作で、主に高知商業が販売先の確保等に取り組んでおり、はりまや橋商店街は県外や海外へのお土産としての需要がある。県内産の箸は、県内の企業(小高坂更生センター)に製作を依頼し、8月に試作品が完成、箸袋も県内産を使用するなど県の進める地産外商政策にも合致しており、新しい高知の名産品として期待できる。